

会議記録（公開用）

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 26 年 5 月 28 日(水曜日)	開催時刻	13 時 30 分頃から 16 時 00 分頃まで
会議名	丸子地域協議会(平成 26 年度第 2 回)		
出席委員	斎藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、今井利樹委員、小澤厚委員、 工藤裕子委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、下村晴一委員、関本吉人委員、 竹花光彦委員、塚越洋子委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、吉池美智恵委員、 吉田暘一委員 (【欠席】内田弘子委員、久保田和英委員、後藤有希委員、山岸嘉幸委員)		
市側出席者	片山丸子地域自治センター長、芹澤丸子地域自治センター次長兼丸子地域振興課長、 北沢丸子地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、清水市民生活課長、 高野健康福祉課長、芦田建設課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター所長、 小相沢産業観光課課長補佐兼商工観光係長 翠川地域政策担当係長、清水統括主査、中山主査、竹花主査		
< 会議場所：丸子地域自治センター 4 階講堂 >			
会議次第			
1 開会（センター次長）			
2 会長あいさつ			
<p>皆さん、こんにちは。本年度第 2 回の丸子地域協議会を開催致しましたところ、大変お忙しい中、委員の皆様にはご参集を賜りまして誠に有難うございます。本日も非常に暑い、真夏日のような日なりそうな陽気です。先日、皆さんご承知のとおり、NHKの大河ドラマで真田幸村の生涯を演じた『真田丸』が放映されることになりました。非常にうれしいニュースもお聞きしたところです。上田市がますます元気になるように願っているところです。</p> <p>本日は、報告案件が 7 件、協議事項等もありまして、前回同様に長い会議となりそうですが、皆さんの御協力を頂きながらスムーズに進めて参りたいと思います。</p> <p>本日は大変、御苦勞様でございます。</p>			
2 報告事項			
(1) 平成 26 年度丸子地域自治センター重点目標について			
<p>(センター次長) 重点目標は、大きく分けて 5 項目を掲げてあります。1. 地域経営会議の設立、2. キラリと輝く丸子温泉郷の活性化、3. 安心なまちづくりの推進、4. 環境に優しく笑顔が広がる地域づくり、5. 明るく親切で満足度の高いセンターづくり。</p> <p>1 番目の「地域経営会議の設立」ですが、さらに 3 項目の取組み項目を掲げてあります。自治会や地域協議会、各種団体との意見交換、地域経営会議設置に関する検討会議を設立し、区域や規約のほか組織や一括交付金制度の利活用等の検討、地域経営会議の設立。このように進めて参りたいと思います。</p> <p>2 番目の「キラリと輝く丸子温泉郷の活性化」について、具体的な重点取組項目として、</p>			

活性化に向けた取り組みとして、鹿教湯温泉 100 年ブランド創造プロジェクト策定マスタープランの事業絞込みと具体化に併せて鹿月荘、クアハウスのあり方の検討、鹿教湯・霊泉寺の活性化グループが行う各種計画や研究に参加し具体化を検討、県等と連携し、着地型旅行商品の開発とPR活動の実施。

鹿教湯温泉の地域課題解決への取り組みとして、主に温泉開発株式会社の関係ですが、温泉利用権に係る諸問題の解決等があります。

3 番目としまして、「安心なまちづくりの推進」ということで、災害時情報の収集・発信方法の確立と本部機能の強化。2 月の大雪災害において、情報が滞ったということ、これについて情報発信を検討していきたい。防災行政無線の利活用。災害時要援護者登録制度【住民支え合いマップ事業】の推進。

4 番目「環境にやさしく笑顔が広がる地域づくり」としまして、地球環境に配慮した取り組みとして、可燃ごみの削除と再資源化の促進、不燃ごみ3分別丸子モデル事業の見直し。

やさしい地域づくりへの取り組みとして、公共交通活性化の推進、障害者就労施設等からの物品等調達推進。

5 番目の「明るく親切で満足度の高いセンターづくり」としまして、庁内横断の情報共有と迅速で質の高いサービス提供ということ、地域内課題への機敏かつ効果的な対応の充実。さらなる来庁者満足度向上への取り組みとしまして、積極的かつさわやかなあいさつや担当窓口での丁寧な案内の実施。職員接遇意識調査・来庁舎アンケートの実施等。

以上のような重点目標を掲げております。

< 質疑・応答 > なし

(2) 地域経営会議設置に関する意見交換の実施について

(センター次長) 地域経営会議の設置にあたって、各自治会長および役員の皆様と意見交換をしたいということで、資料のような通知を申し上げました。担当職員が各地区に出向きまして自治会の意見を聴きたいという主旨で、資料裏面のとおり自治会単位ではなく自治連単位で意見交換会を行いたい。地区連の皆さんと日程調整のうえ、6月3日を皮切りに6月17日まで夜間、各会場に出向きまして皆さんと意見交換をしたいというものです。

地域内分権の理解が少ないという問題もあります。説明もどう理解していただくか難しいところもあるのですが、まずは提案をして進めるというのではなく、今の地域の現状や困っていること、自分たちの地域をよくするにはどんな事をしたらいいのか、皆さんから意見や要望をお聞きした中で、今後の地域内分権推進の上での参考にさせていただきたい。

7月に検討会議を設置します。地域経営会議を組織的に、この丸子地域に一つでいいのか、二つがいいのか、そのようなことも地域協議会や各種団体の意見も含めて12月までに検討いただきまして、3月には地域経営会議の設立をしたいとのことです。

市長が地域内分権の推進に向けて、今年度中にモデル地区を設けていきたい旨を申し上げたところですが(平成26年4月16日(水)信濃毎日新聞朝刊27面記事参照)決定はされておられません。専属となる地域担当職員がいま配置されまして、業務をおこなっているところです。市長は、「住民が一定の裁量を持ち、課題を自ら解決できる仕組みを構築したい」と述べられています。

< 質疑・応答 >

(委員) 意見交換会の参加者の範囲は、資料には各自治会役員 3 名以上の出席をお願いしますが、これは住民対象と言うことではなく自治会の役員さんが対照と言うことでしょうか。

(センター次長) 資料にある通知は自治会長あてに出したものでございまして、住民対象のいろいろな説明会を今までも実施しているところですが、なかなか出席者が少ないということもあり、このようにまずは自治会の仕事をしている役員さんにお話を伺いたいということです。先日も市議会議員さんのほうから、傍聴の可否の問合せもありまして再度検討しました。住民の方が御参加いただくのは構わないということで、自治会から住民の方へ連絡していただくということで考えています。

(委員) では、それは各自治会で検討するということなのですね。住民も一緒に参加という自治会があれば、自治会が案内を出すということもありえるということですか。

(センター次長) ちょっと説明不足がございましたが、自治会から連絡を流すというのは時間的に無理ということで、丸子有線と丸子テレビにより連絡するというので、これについては傍聴をしていただくということです。意見交換をするのは、役員さんということでお願いしたい。

(委員) 今の質問と全く同様ですが、お知らせするのは有線と丸子テレビということで、他の方法はとらないのですか。いずれにしても、一般の方も傍聴は出来るということなのですね。

(センター次長) 自治会の役員さん以外にも傍聴できるということです。

(会長) 先程、説明もございましたように、丸子地域内の 5 箇所で意見交換会を実施することのお話ですので、地域協議会委員の皆様も傍聴的な形で、時間がございましたら御参加頂き自治会の考え方も把握していただければと思います。地域協議会としましては、委員の皆さんとの意見を私の方でまとめていきたいと考えています。

(3) 雑がみ回収袋に係る説明会の開催について

(会長) 可燃ごみの減量のための雑がみ回収袋の導入につきましては、前回までの会議でも取上げられておりましたが、とりわけ住民の関心の高いごみの出し方の変更です。

(市民生活課長) 丸子地域では雑がみは既に分別回収いただいておりますが(『小さな紙類の青色ネット回収のこと)、上田市全体で回収袋を導入するということで自治会に説明会の開催をお願いした次第です。その意向調査を自治会に行ったものです。現在のところ、26自治会中11の自治会が説明会を希望されており、1自治会が検討中です。12自治会で説明会を開催させていただく予定です。現在、その希望日を調整中です。その説明会の際に、新たな統合ごみ処理施設についての説明も併せて希望する自治会は、現在のところ11自治会中8自治会です。開催を希望しない自治会においては、全戸にチラシと回収袋が配布されるということで周知するということです。ごみの減量化と再資源化について、行政からのお願い等もありますので、1時間ほどの説明会の予定です。

< 質疑・応答 >

(委員) 自治会説明会の意向調査は、全自治会開催としないで、希望の自治会のみとした理由はどのようなことでしょうか。

(市民生活課長) 雑がみ回収袋について、特に丸子地域はすでに分別回収をしているとい

うこともあり、回収袋の使用の仕方については極めて簡単で説明を要さない。チラシをもってすれば足りるという考えです。また、現在私たちは全体でごみの減量化等に取り組んでおりますので、そういった説明とか、資源循環型施設の説明とかは別にもございますので、今回は希望自治会とさせていただきます。

(委員) ごみ減量化ということならば、全自治会で。今回の説明会は雑がみ回収がメインで、ごみ減量化はそこにくっつけたものだと思います。ごみの減量化については、またごみの分別についてまだ迷う部分も住民の皆さんはあるようですので、出来ましたら全自治会に順次説明を、ごみ減量化について、また、分別について説明するような機会を設けていただけたらいいかなと思います。よろしくお願いします。

(市民生活課長) わかりました。今後、今回の雑がみだけではなくて、もし仮に今後あるとすれば、3分別モデル事業の件に伴いまして全自治会に入ることがございますので、その際にはそのようにして参りますのでお願いします。

(委員) 先程、地域経営会議の説明会について、そしてこの雑がみ回収の説明会について、地域協議会にご報告いただきましたが、自治会に説明をした後はどのようなプロセスになるのか。または、単に協議会へ説明しただけとなるのか。説明会をやりますということだけで、その後のプロセスがどの様に想定されているのか、説明をお願いしたい。

(センター次長) 地域経営会議の設置に向けてです。あくまでもこれは地域経営会議の設立に係わるものでして、今までの行政主体の組織づくりということではなく、今までは行政が組織をつくり、そこにどなたか委員さん参加してくださいというように委員に参加を求めてきたが、あくまでも住民がいろいろな問題をかかえているということを伺いまして、その中で組織をどのようにしたらいいのかという、その基礎となる意見を頂くのが目的です。自治会、地域協議会、各種団体の意見をもらいまして、それをこちらでとりまとめて、それをもう一度フィードバックする。それを検討会のほうで検討いただいて、その中で地域経営会議を設立していく。その最初の意見や地域で困っていることを把握したい。

(市民生活課長) 雑がみの関係は説明をした後には導入、説明日に回収袋を持参しますので、月に1回の回収日にはそれを利用していただくことが始まります。今後、雑がみがどのように回数されているかのデータを全体で取りまして、可燃ごみの中でどれだけ再資源化できるかを捉えて参ります。

(4) 不燃ごみ3分別モデル事業のあり方の検討について

(会長) 昨年度の第12回会議でも、数名の委員から意見や質問が多数出ているように、この問題に関しても賛否も二分されており、とりわけ重要な議題で、住民の関心も高い事項であると考えています。市民生活課長、資料説明をお願いします。

(市民生活課長) 今回はアンケートまで至っておりませんので、現状の報告ということになります。

「不燃ごみ3分別モデル事業」については、平成23年度に実施したアンケートでは「処理経費がやすくなれば」との条件付きの回答を多く頂きましたが、現在、市民生活課には「分かりづらい」「置き場所に困る」などの意見が多く寄せられています。また、市議会の一般質問でも3分別のあり方の検討を求められている状況です。一方で、分別による環境負荷の軽減などの取り組みの重要性についても御意見を頂いており、ごみの減量化と再資源化には市を挙げて取り組んでいることから、このたびの「雑がみの分別収集」など、再

資源化できるものの分別の徹底を進める必要があります。

「分別」は環境負荷の低減にとって重要なことですが、3 分別によるメリットが特に見られない状況であり、分別における市民負担の軽減を図る必要もあります。このため、自治会や関係団体にアンケートを実施して、モデル事業のあり方を検討します。

今回、まだアンケートについては事務が進んでおりませんでしたので、申し訳ございません。現状だけ見ていただきますと、不燃ごみの排出状況については、丸子地域は平成 20 年度 235,230kg で、平成 25 年度は 245,130kg 少し増えている。一世帯あたりは、26.71kg(平成 20 年度)と 26.69kg(平成 25 年度)。上田・真田・武石地域は、平成 20 年度 2,285,780kg から平成 25 年度 2,045,340kg と減少している。一世帯あたりでは、43.13kg(平成 20 年度)から 36.23kg(平成 25 年度)に減少している。規模が多いだけに、人口変動の要因が現れているかもしれません。

可燃ごみの排出状況については、丸子地域の平成 20 年度は 3,381,570kg で、平成 25 年度は 3,353,030kg と微減です。上田地域他では、平成 20 年度で 21,223,350kg、平成 25 年度 19,670,830kg に減少しています。可燃ごみについては、丸子地域では増加の傾向にあります。

不燃ごみは、丸子地域では増加傾向にありましたが、平成 25 年度では対前年比約 9.2% 減少しています。上田地域他では減少傾向にあります。1 世帯あたりの不燃ごみ排出量は、丸子地域ではほぼ同じですが、上田地域他では減少傾向が見られます。

資料裏面には、平成 20 年度～25 年度の廃プラと金属類の再資源化とガラス・陶磁器類処理残渣の発生についてデータです。丸子地域、廃プラは 39.46%、金属類 37.63%、その計の再資源化の比率は 77.09%あります。ガラス残渣が 22.91%です。上田地域他は、廃プラが 56.48%、金物類は 14.65%で、それらの計の比率が 71.12%。埋め立てのガラス残渣が 28.88%となっています。傾向としては、丸子地域は金属類の構成比が高く、上田地域では廃プラスチック類の構成比が高い。全体に占める資源化の割合は、両地域とも 70%を超えています。

処理費用については、収集運搬費用で、丸子地域は 27.83 円/kg で、上田地域は 13.37 円/kg、真田地域は 28.35 円/kg、武石地域は 29 円/kg です。選別等処理費は、丸子地域 20.56 円/kg で、上田・真田・武石地域は 16.58 円/kg で、3.98 円安価になっています。

収集運搬費では、丸子地域は世帯数が約半分の真田地域に近い状況です。選別等処理費では、24 年度では単価の差が 3.80 円であったが、25 年度では 3.98 円と開いている状況です。

処理費の考え方としては、モデル事業を廃止し、一括回収の方式で排出した場合の費用状況は、平成 26 年度の入札単価を平成 25 年度のごみ量を用いて算出すると、これは中間処理の場所が丸子地域にあるか上田地域にあるかで異なりますが、収集運搬は中間処理の場所が丸子地域だと同額だが、上田地域だとプラス 1,642 千円の負担となる。

選別等処理費については、3 分別だと必要は無いが、1 袋での一括収集だと選別にベルトコンベヤー等が必要となるので、手間も増えてくるので 1,287 千円ほど負担が上がってしまう。上田地域で中間処理をした場合には、単価は安いので 889 千円ほど負担は減る。

中間処理施設のあり方の検討については、資源循環型施設が建設される際は、リサイクルプラザが併設される計画ですが、中間処理施設の場所は、地域の状況を考慮して決定す

ることとされています。リサイクルプラザに統合すれば費用は安くなりますが、災害時のごみ処理等について、地域の業者との連携の必要性などを考慮してそのあり方を検討します。

これらを含めてアンケートを実施したうえで、決めて参りたいと思います。

資料の2枚目には、平成23年度自治会アンケートで出された主な意見をのせてございますので、またお読みいただければと思います。資料の3枚目は、ごみの分別収集のフロー図になります。今年も可燃ごみは長門運輸が収集担当です。資源物（缶類、びん類、ペットボトル、紙類）は委託料を支払って資源回収しています。プラマーク付きプラスチックは小柳産業の収集です。有害・危険ごみは直営による収集です。

不燃ごみについては、丸子地域では3分別を実施して、それを今年は小柳産業(株)が収集運搬して小柳産業に搬入して中間処理を行います。中間処理選別後、容り法不適合プラスチックを飯山陸送(株)へ出しています（70%燃料、30%リサイクル）。金属類は100%リサイクルで、3業者に出荷しています。ガラス残渣は埋め立てに、飯山陸送(株)へ送っています。下の部分は、上田地域他の処理フローで、(株)ウェルサイクルで収集運搬してウェルサイクルで中間処理し、同じように100%リサイクル処理や、埋め立て処理ということになります。

< 質疑・応答 >

（委員）毎回、この質問をしておりますが、上田・真田・武石は、不燃物を一緒に排出できるのですよね。この丸子地域だけが試験的に、合併後も何年も3分別を継続している。この同じ行政の中で、住民サービスとして受けるものがダブルスタンダードなのですよね。このモデル事業、実験をいつまでやっているのかという問題がある。そろそろ統一していただきたい。

コンビニを経営していますが、店頭で捨てられるごみに、ガラス・陶磁器類が異様に多いです。アパート住まいの皆さんなど、分別が困難なのでコンビニ店頭で結構捨てて行かれる。この地区のコンビニ店頭には非常にそういったものが捨てられる。住民サービスの観点からも、早めに他地域と同様のごみの回収をお願いしたい。

（市民生活課長）考慮いたします。また含めて不法投棄の減少にも努めているところでして、先程うかがった状況が生じないようにも進めていきたいと思います。モデル事業に関しては、平成20年度から開始している。私たちと致しましても、一区切りをしたいと思っている。

（委員）今、そのような意見もございましたが、いろいろな意見があろうかと思います。前回は申しましたが、ごみの分別というのは住民がやることですので、なぜごみの分別が必要か、環境のために分別することがどういう効果を地球環境に与えていくのかとか、そういう根本的なものを十分にわかって分別を行っていくべきだと思う。行政の押し付けで、こういう分別をしなさいということで、皆さん嫌々分別をしている部分があります。やはり、環境のことを思うなら、この3分別に限らず、分別することの意義をやはりきちんと周知する。ごみの分別などは、私は一番の行政と住民の協働だと思う。そこをきちんと住民に理解をさせないと、ごみの分別ということはなかなか進んでいかない。そのところを十分にお願ひしたいと思います。

（会長）要望でよろしいですか。

（委員）はい。

(市民生活課長)わかりました。再三伺っておりますので、先程と同様に、自治会のほうへ説明に入った際には、分別、減量と再資源化から入らせていただきますのでよろしくお願ひします。

(委員)関連ですが、今の委員の話は重要なことだと思います。さんから先程話がありましたけれど、実際的に、一般的にみれば3分別はかなり定着している。ただ、アパートの住民の方のご不便とか、コンビニの迷惑事例もあるけれども、文化の考え方からすると、やはり分別するのなら分別していくのがいい。有効に使えるものは使えるように、分別を行っていくという自分たちの姿勢は大事であると思う。中国などでは逆にお金になるから、こういったものを一般の人が拾い集めている。日本は裕福な状況も経験した中で、安易に分別をせずに処分してもらえばありがたいという気持ちになる。しかし、資源を大事にするということを考慮すれば、むしろ他の地域の方が3分別に合わせていただくほうがよいと思います。たとえ若干費用がかかったとしても。

(市民生活課長)御意見としては伺います。

(委員)今の委員の意見に対してですが、上田地域他も結果的には分別している。一括収集して、それを業者が分別している。丸子の場合には住民が分別して、業者に渡している。先程、委員がおっしゃったように、同じ上田市民でダブルスタンダードではないのかとの話がありましたが、前回の自治会長アンケートでは、丸子地域を上田と同じにしてほしいと言うアンケート結果であったと思う。確かに、分別する意義と言うのは分かるのですが、先程から聞いていると、結果的に分別する費用がかかるから分別して欲しいということがなんだかメインになっている。統合処理施設が出来たときに、丸子は廃止になるわけですね。一本化されるわけですね。距離的には丸子から上田まではあるが、一括して収集して上田で処理するとなれば、処理業者とすれば絶対量が増えるので、単価は当然安くなる。そういう考え方では？輸送費があがるという前提での数字か。

(市民生活課長)資料の収集運搬の費用と中間処理の費用の考え方ということで、上田地域のリサイクルプラザにすべての不燃ごみを一括した場合、今よりさらに安くなるかもしれませんよね。但し、中間処理の施設が丸子地域にあると、災害があった場合とか、大型の不燃物を持ち込む場所の確保とか有利なこともありますので、基本的な考え方はリサイクルプラザが一つできるけれど、ここに統一するだけではなくて、地域ごとに考えてくださいという、地域ごとの事情により、(中間処理施設を)どこにするのかを決めるということになってきました。ですから、丸子地域は統合するのか、別に置くのかも考えなくてはいけません。これも一つの検討課題です。収集の場合は、そこまで持ち込むということで費用は上がるということですので、上田に一括した場合には、処分費用は安くなるが、収集運搬費は確かに高くなる。これはこれで、一つの方法です。

丸子地域に中間処理施設を置きますと、収集運搬費用は変わりませんが、業者のほうで選別に手数料がふえてしまうので、コストは増えてしまう。リサイクルプラザに統合してもしなくても、どちらも高くなってしまいうという状況はある。

(委員)住民サービスという観点で、上田全域で統一した形を中心に考えて対応したいと思うのですが。確かに、丸子に中間処理施設を置けば、また当然別個に費用がかかる。この点は十分に研究していただきたい。

(市民生活課長)わかりました。

(委員)分別は確かに大変大事なことであると思うが、今の現状の中で私たちはしっか

りと分別している。しかし、経費も考えたより効率的なごみの処理を考えていただきたい。中間処理が2重手間にならないような方法でお願いしたい。そして丸子にも、他地域と同じサービスをお願いしたい。

(5) 上田市防災訓練(8月30日開催)の実施について

(会長) 昨年も丸子地域の2箇所では防災訓練が行われたと伺っています。それでは、事務局から資料説明をお願いします。

(センター次長) 市全体で行政が中心になった防災訓練を行ってきたところですが、昨年からそのやり方を見直し、自助共助を基本とした市民が自ら考え行動する訓練という事で方向転換をしました。自主防災組織が自主防災計画をたてて自主的に避難場所の運営や炊き出し訓練をするということで行われまして、昨年度は長瀬自治連と、西内自治会と平井自治会が合同で行っていただき、長瀬自治連は長瀬市民センター、西内・平井地区につきましても西内小学校体育館において訓練を実施したところです。

平成26年度につきましても昨年同様に訓練をしていきたいと考えておりまして、市と自治会との連携を図りながら実践的な訓練を行って行きたい。目的としては、災害時における要配慮者や、男女共同参画の視点を踏まえながら、有事における地域防災体制を目指す。内容としては、広域避難場所として使用する学校の体育館等を会場として、自主防災組織、市、及び防災関係機関の協働による避難訓練や避難場所運営訓練等を行う。

日時につきましては、8月30日土曜日の朝6時から正午まで。実際に参加いただく自治会の都合により、時間の変更があります。原則として、丸子地域では1箇所を考えております。先日の丸子地域自治会長連絡会の中で、募集したところです。

<質疑・応答>

(委員) 防災という大きなくくりがありますね。この地域は幸いにも比較的災害の少ない地域で、過去に例があるとすると河川の氾濫、考えられるのは山沿いの土石流。よっぽどでないとはありえないと思う。本当に実のある防災訓練という事であるならば、過去に何があったかを検証しながら、どこどこへ避難しましょうというように、例えば依田川が氾濫しているのに中学校へ避難することは出来ませんね。ですから、防災という大きなくくりではなくて、この地域で想定される将来起こりうるであろう災害に対して何をしておこうかということのほうが先ず主眼にあるべきで、そこを先ず考えるべきだと思う。ただ、集まって炊き出しをしましただけではなく、それ以前にもう少し実のあることを研究するべきではないかと、常日頃思っておりました。

(センター次長) 貴重な御意見を有難うございます。確かに、実際の災害を想定して準備を行うというのが一番ですが、佐藤委員さんがご指摘のように、この地域は災害の少ない地域です。ただ、台風災害では近所でも床下浸水の例がございました。今はゲリラ豪雨がよく発生しまして、これはこの地域でもいつどこで起こるか分からない。あと、地震に関しては、震度5強の地震が30年以内に発生する可能性が高い地域とも言われています。松本の断層の関係で起きるといわれています。また、このあたりには活断層はないのですが、活断層の無いところで起きている地震も実は沢山ある。空白地帯といわれています。この空白地帯で起きる地震は、周期性がわからないともいわれております。そういう地震も想定して行うというのも一つではあるのですが、まずは情報を得たら住民をどうやって避難させるか、避難場所は確かに災害によって違いますが、また、避難場所で何をしなければ

いけないかということを実践的にやっておくのが大切だと思っています。

(委員) 私の住む西内・平井地区は、想定となるのは内村ダムの決壊がまず第一番に出てくるのですが、集まる場所は大抵公民館。河川のすぐ近くにある公民館に集合したらみんな流されてしまうと、住民内で話しあう機会があった。やはり、再度住民の皆さんにハザードマップ、危険箇所の周知をしていただけたらありがたい。

(建設課長) ハザードマップにつきましては、県の作成したマップです。建設事務所と協議しながら、よりよい周知方法を考えて行きたい。

(委員) 私自治会長として最近、公民館の建てかえの起工式が終わったばかりです。これは東日本大震災を市の条例で、古い公民館については耐震診断をするようにということで、100年近く経過しているため診断していただいたところ、震度6以上の地震で倒壊するという。それで、住民の意向も踏まえて建て替えということになった。これは、丸子地域は地震の少ない地域でありながら、なぜ地震にそれほど気をつけなければいけないのかと思っていました。たまたま、上田市の防災関係の研修会に出席して、南海トラフの地震、静岡から糸魚川へのラインに震度8の地震が来ると、上田地区へは震度6の地震が来る。上田市の大半の木造住宅は倒壊するという、信大の地震を研究する教授の話でした。長野県中南信にその可能性があるということで、震度8の地震がこのエリアに来ると、それに付随して上田市には震度6の地震が来る。家屋が倒壊しますよという話だった。

10年先か、30年先かわかりませんが、近い将来に来るとということで、大きな地震に対応するためにもこの防災訓練というのは、組織的にやっていただきたい。防災組織自体が、実際にその組織どおりに訓練をしたことが過去一度も無い。部分的な訓練ではなく、もっと総合的に動けるような訓練を、どっか一箇所モデル的にやっていただきたいと思います。

(会長) 御要望でよろしいですか。

(委員) はい。

(委員) 平井自治会長ですが、平井自治会はたまたま3年連続で規模は小さいですが避難訓練をやっています。避難訓練の計画をたてて、皆さんにおはかりすると、目的は何かとか、どこへ逃げればいいのかとか、結構議論になる。地域として、平井自治会は6部落あるのですが、避難場所は部落長におまかせしているが、実際にやってみると面白い現象がある。例えば、宮沢地区では逃げる際に持参したものを見せ合うとか、他の地域では基本的には高台に逃げるのですが、内村ダムが決壊したら内村の住民は誰も助からないだろうという心配から、とにかく高いところへ逃げるようにしている。実際にかかる時間とか、とにかく実際的なことをやってみた。そこで、住民の皆さんが、西内小学校に非常食などが設置されていることが判った。地域のものは誰も知らなかったが、実際行動を起こしてみるといろいろなことがわかってくる。そのことが大切だと思う。

(6) 県道上田塩川線と市道丸子小牧線の交差点改良工事について

(建設課長) この県道と市道の交差点ですが、特に通勤通学時間帯における交通渋滞が著しい国道18号あるいは国道152号を補完する千曲川左岸道路及び依田川左岸道路として交通量の大変多い路線です。特に市道丸子小牧線においては、丸子・武石地域はもとより、依田窪地域と上田中心市街地とを結ぶ重要路線となっております。この交差点ですが、県道を本線として、この県道のヘアピンカーブに市道が接続する形となっている危険な交差

点形状で、長い間改良工事が望まれておりました。平成 23 年 2 月 9 日に、朝 7 時から夕方 7 時までの 12 時間交通量調査を実施したところ、県道上田市塩川線と市道丸子小牧線、いわゆる東郷橋方面から上田中心市街地へ向う車の総台数ですが、往復で 5,700 台。県道上田塩川線の東郷橋から音楽村方面への交通量は 1,150 台。市道のほうが約 5 倍ほど多い状況。

その後、県と市で協議した結果、現在でも交通量が多く、丸子小牧線のトンネルが平成 27 年の秋には完成するため、今後も交通量の増加が見込まれることから、県の事業として、この交差点の改良工事を行い、安全を確保する形となりました。

交差点形状ですが、交通量調査に基づきまして、実際の交通の流れに沿った形で、県道上田塩川線と、市道丸子小牧線を主本線として、茂沢方面からの県道を接続する形となりました。計画区間は東郷橋から小牧線を上ったあたりまでで $L = 323\text{m}$ 。茂沢方面から来た車が一時停止する形で、 $L = 76.3\text{m}$ の県道区間。これにつきまして、地元自治会とも協議を致しまして、このような交差点形状になりまして、併せて東郷橋下流側に歩道があり、それに合わせて下流側に歩道を設置して、平成 28 年度の完成です。平成 24 年度から地元自治会の皆様のご協力を得て、調査測量設計及び用地交渉等行いまして、いよいよ本年度から東郷橋側から県道の土手下部分の土留工事に着手しております。

また、この改良工事に伴いまして、県道側の土手部にある桜の木ですが、長い間、茂沢自治会で管理していただいております。毎年春にはわれわれ通行者の目を楽しませておりましたけれども、この改良工事の支障となるため自治会の了解を得まして伐採することになりました。協議の中で、せめて今年の桜を観ようという事でしたが、桜も終わりましたのでこれから順次工事業者によって伐採をしていきます。

工事期間中は全面通行止めになるかと思えます。その際には大変ご不便をおかけしますが、御協力をお願いします。

また、信号機の設置につきましては、市と上田建設事務所と茂沢自治会で協力して、公安委員会のほうへ交通の開通とともに設置できるように申し入れしてございますが、まだ公安委員会のほうからは回答をもらっておりません。引き続き要望して参りたいと思っています。

< 質疑・応答 >

(委員) この設計の中でちょっと心配になるのが、茂沢の集落から下っていくと該当箇所付近が冬になると日陰になり、尚且つ、ちょうどこの範囲のところ勾配がかなりきつくなっているため、停止線になるとすべを非常に心配です。したがって、この箇所に自動塩カル散布機を設置するか、スベリに対する自動対応装置を設置してもらえるように検討いただきたい。

(建設課長) 本線が東郷橋から小牧線へ向っていくと、低くなっている現在の交差点の部分が上がってくる。日影部分の解消は出来ませんが、茂沢方面からくる車については勾配がゆるくなる。冬場の凍結剤散布についても、また本線が変更されるので信号機の予告灯なども要望して、安全対策もしっかりとしていきたいと思っている。

(7) わがまち魅力アップ応援事業の申請変更等について

(センター次長) お手元の資料「平成 26 年度わがまち魅力アップ応援事業内示事業一覧」には 12 の事業が掲載されておりますが、そのうちの「石井花と緑の会」の花づくり交流

事業ということですが、地元の体制が整わないということで、本年度は事業実施をしないということで連絡がありまして、またその理由等については文書であげさせていただきます。

引き続きまして、平成 26 年度の第 2 回のわがまち魅力アップ応援事業の募集ですが、平成 26 年 6 月 9 日～6 月 27 日までの間募集するということです。各自治会、団体等でお申込いただきたい。事業の流れについて（資料 p5）の事業選考ですが、主たる事業実施地域の「地域協議会」において、申請団体が事業の説明（プレゼンテーション）を受けて、その中で事業の採択を決定します。募集要項に目をお通しください。

< 質疑・応答 >

（委員）質問要望ではありませんが、皆さんにご承知いただきたいことがございます。魅力アップ応援事業は、内村地区の採択が多くみえるのですが、それが多すぎるという意見を耳にしました。皆さん、本当に地域をよくしたいという思いから申請して事業を実施しているわけですが、ささやかれる補助金目当てとの意見を聞いて大変残念に思いました。やはり、もっと周知をして市民の方にこの制度を知っていただきたいと思います。

（会長）一見採択数は多いですが、積極的に事業を推進しようという表れだと思います。委員の皆さんも周知徹底をお願いしたい。それぞれの地区からどんどん要望が出るような方向性をお願いしたい。

（センター次長）一生懸命やっておられる団体の皆さんには大変残念な意見だと思うのですが、そういった意見があるということは一つには、その地域に活気があって、やる気がある地域だということだと理解している。やはり、市の補助金をつかった事業の成果もアピールしていただければ、皆さんにご理解いただけるかと思う。市民活動団体交流会等も行っていただいておりますが、さらに多く発信していただければと思います。

（委員）評価委員会に参加した際に、魅力アップ応援事業についても検討課題に挙がりました。その中で、魅力アップ応援事業に批判的な意見も出ました。なかなか市民の皆様は事業を評価してもらうということは、報告会とかも必要ではないかという意見も出ました。正副会長会の中でも、報告会について話題に出ました。丸子のように市民活動団体交流会をやっているところは丸子だけですが、報告会やっているところはいくつかある。地域活性化つながっていくことですので、ただ無駄に税金を使っているのではなくて、地域の皆さんが一生懸命やっていることなので、たとえば交流会に一般の方がどんどん参加していただくとか、丸子テレビでも交流会の様子も流れてもおりますので、地域の皆さんにも十分に理解していただき、地域の活性化のいつなげていただければと思います。

（委員）飯沼でも、この魅力アップ応援事業の資金を活用させていただいた経緯もある。過去の事業で成果のあがったものなど、自治センターだよりなどの印刷物で紹介していただいたらありがたい。

（会長）丸子地域協議会でも第 4 期までの間に、実施したところの視察であるとか、応援という形での説明会をお聞きしたりした経過もありますので、また 5 期目の中でもいろいろ検討はしていきたいと思っておりますし、できるだけ市民にも報告するように、知っていただくような方向で考えていきたい。

(追加案件)平成26年度地域振興事業基金(持寄り基金)の活用事業について

(会長)続きまして、報告事項としまして次第にはございませんが、本日配布資料の持ち寄り基金の活用事業につきまして事務局より報告の申し出がございましたので資料説明をお願いします。

(センター次長)資料の1から5番については以前に皆さんのご意見を頂いたところですが、6番の公有財産管理事業費の旧海戸団地測量設計業務につきましては、6月補正予算計上ということで前回資料をお渡ししましたが、予算額の訂正がありました。7番の観光宣伝事業費の鹿教湯温泉ふれあいノルディックウォーク2014についても6月補正予算計上で、前回報告のとおりです。8番の信州国際音楽村管理運営事業費:生涯学習の里研修センター棟外壁塗装工事設計委託と塗装工事、及び9番の丸子体育施設管理事業費:丸子総合体育館アリーナ天井照明改修工事については、予算額欄が0円となっています。これについては、丸子地域教育事務所長より説明します。

(丸子地域教育事務所長)8番については、6月補正予算要望いたしましたでしたが、計上できませんでした。これについては来年度も予算要求をして参ります。9番の丸子総合体育館のアリーナ天井照明改修の関係につきましては、今後耐震診断に併せて、照明について照度をあげることを検討していきたい。現状ですが、平均145ルクスということで、体育館の中のレクリエーション施設として捉える場合には、75から150の範囲におさまっている。一般競技ということになりますと300から700、公式競技では750から1500ということです。造った当時からすると、レクリエーション施設ということでございましたので、現状の照度ということです。

<質疑・応答> なし

<ここで休憩 15:05 ~ 約15分。>

4 協議事項

(1) 分科会の設置等について

(会長)4月の第1回の協議会にて、第4期丸子地域協議会から第5期の協議会への引継事項は既に皆さんにお示ししてございますが、あらためて資料7に記載されています。

この中で、分科会の設置に関しましては、第4期において、「子育て支援分科会」を研究会から継続して立ち上げていただいたばかりで、研究したい内容も既に明確化されておりす。また、「公共交通分科会」においては、まりんこ号のラッピングデザイン等の検討の途中でもございました。私の考えとしましては、この二つの「子育て支援」と「公共交通」につきましては分科会として設置継続したいと考えております。

このほか、本年度は自治センターから、地域経営会議の設立に向けた検討も要請されるところでございまして、分科会の設置や検討のスケジュールをどのようにするか、本日ある程度方向性を決定したいと考えております。出来ましたら、それぞれの分科会の担当委員につきましても、皆さんのご希望を伺いながら本日有る程度決定していきたい。

それでは、事務局から資料の詳細を説明してください。また何か、提案があれば併せてお聞かせください。

(センター次長)「子育て支援分科会」と「公共交通分科会」についてはそのようお願い

したいと思います。

あと、新しい観光についてですが、これは丸子地域自治センターの重点目標の温泉郷の活性化というなかで、鹿月荘とクアハウスのあり方を検討するというごことでもあります。これにつきましても分科会で検討していただければと思いますのでご検討ください。

資料中の、地域経営会議の設立については、地域協議会の意見もお聞きしたいということで、これについては分科会等と言うことではなく、6月の地域協議会におきまして全体会でフリートークの形で皆さんからの御意見を頂けたらと思っています。7月以降については、分科会等を設立していただいて、自治会また団体等の意見にも合わせまして、ご協議願えればと考えております。

(会長) 只今、事務局の説明がございましたが、分科会をどのようにしていくかということについて、御意見を頂ければと思います。先程、2つの分科会をご提案しましたが、今、新しい観光の分科会についても提案いただきました。これについても御意見いただければと思います。

(センター次長) 先ほどの発言を訂正させていただきます。地域経営会議について、6月の全体会で意見を伺いたいと申し上げましたが、全体会終了後に全員のご出席の下、御意見を頂きたいと思っています。全体会においてではないということをご訂正させていただきます。

(会長) 新しい観光について、分科会にするということについて御意見ありますか。

(委員) 「新しい観光の研究会」の研究会長をしております。方向性を絞りまして、一つは「鹿月荘とクアハウスのあり方」を重点的に考えて行きたい。まず、そこから入りまして、丸子地域は丸子温泉郷が観光の重点になってくるとおもいますので、新しい観光という名称ではありますが、鹿月荘・クアハウスから丸子温泉郷の全体を考えていきたいと思っています。みなさんの広い意見をお伺いしたいので、可能であれば分科会として検討いただきたい。

(委員) 分科会に上げることには賛成です。温泉郷という話もありましたけれど、丸子地域において何を観光の目玉にするかということだと思っております。ですから、クアハウスや鹿月荘というものに絞るのではなく、たとえば美ヶ原に通じる道が長期に閉鎖されています。かなりの方があの道路を信じてやってくる。単なる谷間の温泉ではなくて、高原とのつながりであるとか、信州国際音楽村との関係、宮沢の千本桜とか、いろいろな観光資源がそれぞれの地域で出てきておりますので、どういうふうに組み合わせて観光として売り出していくかということについては、もう少しフリーな状態で話し合われたほうがいいのではないかと思います。

(会長) ほかに御意見がないようですが、「新しい観光」についても分科会という形で捉えながら、今の竹花委員の御意見も踏まえて検討いただくということによろしいでしょうか。

私は、引継ぎ事項のなかで、(1)の旧カネボウ食堂棟の活用について気になっているのですが、以前に検討を棚上げしたままになっています。カネボウ跡地が完成した中で、どのようにしていったらいいのか。これについても御意見がありましたらお願いします。

(委員) 自治センターの行政として、カネボウ跡地の中がひととおり整備されてきた中で、検討課題として何か動きがあるのか。といいますのは、状況が落ち着いた中で、住民にとって何が有効かということを考え直そうということで終わってしまいました。ですから、唐突に分科会としてやってみても、話が詰まっていけないと思う。行政としてあの場所を再利用しよう、活用しようと言う動きで予算が出来るのかどうか、住民が参加できるような状

況があるのかも含めて、少し動きをお聞きしてからではないと、立ち上げられないと思う。
(センター次長) 昨年、中央病院が出来まして、カネボウ跡地の全ての用地が決まったところ
です。その状況の中、食堂棟について行政の将来的な考えは今のところありません。
そんな中で、皆さんに検討していただきたいのですが、ただ、今年度につきましては、ボ
ンネット型消防車の修復の復活事業があります。雨風があたらないように、今年度一杯く
らいは作業で使用します。その後、消防車の保管庫と言うことでも考えてもおりますが、
行政としては今そんな状況です。

(会長) 前委員の方とも話す機会がございまして、皆さんいろいろ考えてはいらっしゃる
ようですが、行政側の方向性もあるだろうし、我々としても希望があれば拾いあげていき
たいと考えています。基本的には引き続き研究をするということでもよろしいかと思うので
すがいかがでしょうか。

*** 委員より、異論なし***

(会長) 只今の次長の話も含みまして、「子育て支援」、「公共交通」そして「新しい観光」
の3つの分科会を当面立ち上げて行きたい。あとは、研究会としまして、「旧カネボウ食堂
棟」関係、「商店街の活性化」の関係、それから「市民活動団体の連携」の関係につきまし
ても非常に評判がよかったり、上田市全体としても丸子として注目されていることもあり
ますので、これについても研究しながらすすめていきたいと思えます。

この3つの分科会と、3つの研究会でスタートしていきたいなと思えます。よろしいで
しょうか。

(委員全員) 異議なし

(会長) それでは、このようにご承認いただいたものと解釈いたします。それでは担当委
員を決定したいと思います。今までの関連性もありますし、新規の委員の皆さんにはわか
らないことも多分にありますので、関心のあるテーマがございましたら、新しい委員の方
から伺って参ります。

子育て支援の関係では 委員、公共交通の関係では 委員、新しい観光の関係では
委員は是非お願いしたい。各分科会6~7名程度となります。必ずどれかの分科会に
は所属していただきます。研究会は分科会とは別の日に、皆さんのご都合で研究してい
ただくこととなります。

(委員) 子育て支援の内容は、基本的に未就学児のおかあさん方の支援ということになり
ます。3つほど課題がありまして、最初に取り掛かりたいのは、子育てサロンの充実を
図って行きたいということ。子育て支援を地域でしていくネットワークについて。そのよ
うな内容になります。

(委員) 公共交通については、まりんこ号の関係を主に取り組んできました。乗客数の減
少対策、一番にはまりんこ号を残すにはどうしたらいいのかということを検討しまして、
丸子中央病院が出来たことに伴う時刻表の大幅変更にも取り組みました。運賃低減バスを
ふくめた、公共交通の研究です。

(委員) 再度、きちんと説明します。申し送ったことは3つの柱。 妊婦・子育てにおけ
る相談窓口をもっと身近で相談し易い窓口システムの検討、 子育て支援サポート。子育
て世代や女性団体等との意見交換を実施し、地域ネットワークの構築について検討する。

子育てサロンの継続・充実について。以上の3つを申し送りしました。

**** 最終的に正副会長と事務局で協議して割振りを決定することになった。出席者同意。**

(会長) 研究会については次回に、皆様のご希望・御意見をお伺いします。

(会長) 引き続き、次長より丸子地域自治センター重点目標への対応について説明いただきます。

(センター次長) 先程簡単に説明申し上げましたが、地域経営会議の設立について、地域協議会委員の皆様のご意見をお伺いします。また、地域公共交通の活性化についても重点目標にあるなかで、御意見をうかがっていきたくと思っていますのでよろしくお願ひします。

(会長) 本日、その時間を取りたいと思います。

(センター次長) 分科会については、本日時間がありません。7月以降の開始ということでお願ひします。

5 その他

(1) 平成28年NHK大河ドラマ真田幸村放映決定について

(センター次長) 2016年の大河ドラマに、真田幸村の生涯を題材とした「真田丸」が始まります。監督は三谷幸喜氏です。経済効果や活性化に期待するということで、上田市としてもこれを機に活性化につなげない。施設整備ともやっていかなければならない。

<質疑・応答> なし

(2) 信州ルネッサンス2014について

(丸子地域教育事務所長) 今回は信州国際音楽村開村27周年として行われます。6月7日(土)に記念式典がございます。ルネッサンスウィーク2014として、5月31日の星空オペラを皮切りに、6月8日まで催し物が続きます。

<質疑・応答> なし

(3) 次回以降の会議日程について

第3回協議会 6月27日(金) 第4回協議会 7月25日(金)

午後1時30分 丸子地域自治センター4階講堂

(4) その他

(会長) 全体を通して何かございますか。

(市民生活課長) 市民生活課からもう一つだけご報告します。除雪機購入補助事業の拡充についてですが、自治会から要望がありまして、6月議会に補助率と限度額の拡充をお願いしているところです。予算が認められれば、内容は後日出しますけれども、議決の後7月11日の自治連定例会に諮った後、7月16日の定期送達で自治会長あてに、補助率と限度額の拡充の内容と、要望のスケジュールにつきましてお届けします。

補助率については、丸子地域は6分の1まで、真田地域は10分の8までとなっていますが、これを統一したい。上限額も丸子では30万、真田では60万円でしたが、これも統一します。

(委員) 少しでもお時間をお願いします。鹿教湯温泉で鹿コンを行いました。第1回のときにできたカップルが来月6月にご結婚されます。また、今後とも鹿コンを開催したいと思っていますので御協力をお願いします。

(建設課長) 先程、県道上田塩川線と市道丸子小牧線の交差点改良工事について説明させていただきましたが、その中で「全面通行止」ということで説明をさせていただきました。大動脈でもございますので、できるだけ全面通行止めは避ける方向で努力しますが、最悪全面通行止めもありうるということでご理解をお願いします。

6 閉会

- * * * 閉会后、16時から自治センター3階第2会議室に移動し、地域経営会議設立に関する検討部会を開催。(終了 概ね17:15頃まで)